

令和4年度

島根県公立高等学校  
入学者選抜の結果と分析

令和4年6月

島根県教育委員会

# 目 次

令和4年度島根県公立高等学校入学者選抜について・・・P 1

令和4年度学力検査の結果と分析

国 語・・・P 1 0～P 1 1

社 会・・・P 1 2～P 1 3

数 学・・・P 1 4～P 1 5

理 科・・・P 1 6～P 1 7

英 語・・・P 1 8～P 1 9

# 令和4年度島根県公立高等学校入学者選抜について

令和4年度島根県公立高等学校入学者選抜は「令和4年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針」及び「令和4年度島根県公立高等学校入学者選抜実施要綱」に基づいて、39校（全日制課程36校（分校含む）72学科 入学者定員5,140人，定時制課程3校8学科（部）入学者定員360人）で行われた。その概要は次のとおりである。

## 1 入学者選抜の基本方針について

### 令和4年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針

島根県教育委員会  
松江市教育委員会

#### 1 選抜全般について

- (1) 一般選抜，推薦選抜，スポーツ特別選抜，中高一貫教育校(連携型)特別選抜を実施する。
  - ア 一般選抜においては，出願後1回に限り志願変更を認める。
  - イ 一般選抜における合格発表の時点で，欠員が生じたすべての学校・学科において，第2次募集を実施する。
  - ウ 推薦選抜の募集人員は，体育科を除き当該学科の入学定員の40%程度までで各学校が定めることとする。
  - エ 推薦選抜，スポーツ特別選抜，中高一貫教育校(連携型)特別選抜においては，各高等学校が「求める生徒像」(※1)をもとに出願資格や出願書類を定め，各校において適正な選抜を実施する。

(※1) 「求める生徒像」とは，令和3年3月の学校教育法施行規則の一部改正により，高等学校の特色化・魅力化に関して各校が策定することとされた方針（いわゆるスクール・ポリシー）のうち，「入学者の受入れに関する方針」を指す。

- (2) 県外からの合格者上限4名を超える高等学校の生徒の募集については，別に定める。
- (3) 松江市内，出雲市内にある県立高等学校全日制課程4校（松江北高校，松江南高校，松江東高校，出雲高校）の普通科については，地域外の合格者の割合を入学定員の10%（出雲高校は5%）以内に制限する。
- (4) 通信制課程においては，前期（4月）入学及び後期（10月）入学のための選抜を実施する。

#### 2 一般選抜学力検査について

##### (1) 問題作成

- ア 学力検査問題は，島根県教育委員会及び松江市教育委員会において作成する。
- イ 学力検査問題の作成にあたっては，委員等の人選及び作業の過程について細心の注意を払うこととする。

##### (2) 出題方針

高等学校教育を受けるに足る資質と能力が正しく判定でき，かつ，中学校教育をゆがめる

ことなく、その充実に資することができるよう十分留意して、次の方針により出題する。

ア 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標・内容に即して、問題の内容と程度を定める。

イ 単に知識や技能を問うのみでなく、知っていること・できることをどう使うかという観点で思考力、判断力、表現力等を問うことのできる問題を作成する。

### (3) 学力検査の実施

ア 実施教科

中学校の国語，社会，数学，理科，英語の5教科で実施する。

イ 実施期日

令和4年3月3日（木）

公立高等学校全日制課程，定時制課程について，一斉に実施する。

ウ 学力検査場

公立高等学校を学力検査場にあてるとともに，その管理は，各高等学校に設ける学力検査実施委員会が担当する。

受検者は志願先高等学校で受検する。ただし，特別な事情により最寄りの学力検査場で受検を希望する者については，最小限の特別措置を図ることとし，これについては別途指示する。

エ 実施時間・配点

実施時間は各教科50分とし，配点は1教科50点満点，合計250点とする。

### (4) 採点

採点場は，別に定める公立高等学校とし，採点者には採点場ごとに設ける学力検査実施委員会の委員をあてる。

### (5) 追検査

実施期日は令和4年3月8日（火）の1日とし，面接及び実技を実施する場合もこの日のうちに行う。なお，実施教科及び実施時間は本検査と同じとする。ただし，対象者は学力検査当日の特別措置によっても対応できず，やむを得ず欠席した者とする。

## 3. その他

この基本方針に定めるもののほか，必要な事項は，令和4年度島根県公立高等学校入学者選抜実施要綱で定める。なお，今後の新型コロナウイルス感染症の状況等によっては方針等を変更する場合がある。

## 2 推薦選抜，スポーツ特別選抜，中高一貫教育校（連携型）の特別選抜

入学願書の受付は，令和4年1月7日（金）から1月13日（木）12時までの間に行われ，令和4年1月25日（火）に合格内定が通知された。

### (1) 推薦入学者選抜（推薦選抜）

昭和57年度から実施している推薦入学者選抜（以下「推薦選抜」という。）は，今年度33校63学科（昨年度30校59学科）で募集し，33校62学科（昨年度29校58学科）で行った。

募集人員については平成17年度から「当該学科の入学定員の50%程度まで」としていたが，平成23年7月の島根県教育課程審議会答申「島根県立高等学校の入学者選抜方法の改善について」を受け，「体育科を除き当該学科の入学定員の40%程度までで各校が定めること」とした。その結果，表1に示す各高校・学科・募集人員で実施された。選抜にあたっては，中学校から推薦された者について調査票等を含めた書類審査及び面接等を行った。

この募集に対して本年度は892人（昨年度851人）の出願者があり800人（昨年度761人）が合格した。推薦選抜の制度は，一般の入学者選抜に比べ，特に学力検査では評価しがたい，その学校や学科にふ

さわしい多面的な能力・適性等を評価した選抜を行うところにその意義がある。各高等学校は、中学校と連携しながら、この制度の活用について検討してもらいたい。

表 1 推薦選抜募集人員（％は入学定員に対する比率を示す）

推薦選抜募集人員	学 校 名 (学 科 名)
60%	大社高校 (体育科)
40%	松江工業高校 (全学科)      松江商業高校 (全学科) 松江農林高校 (全学科)      出雲工業高校 (全学科) 出雲商業高校 (全学科)      出雲農林高校 (全学科) 邇摩高校 (総合学科)      島根中央高校 (普通科) 江津工業高校 (全学科)      益田翔陽高校 (全学科) 津和野高校 (普通科)      隠岐島前高校 (全学科) 松江市立皆美が丘女子高校 (国際コミュニケーション科)
35%	浜田商業高校 (全学科)
30%	情報科学高校 (全学科)      矢上高校 (全学科)
25%	大東高校 (普通科)      平田高校 (普通科) 江津高校 (普通科)      浜田水産高校 (全学科) 吉賀高校 (普通科)      松江市立皆美が丘女子高校 (普通科)
20%	松江南高校 (探究科学科)      三刀屋高校 (総合学科) 飯南高校 (普通科)      出雲高校 (理数科) 隠岐高校 (普通科)      隠岐水産高校 (全学科)
13%	安来高校 (普通科)
10%	松江東高校 (普通科)      横田高校 (普通科) 三刀屋高校掛合分校 (普通科)      大社高校 (普通科) 隠岐高校 (商業科)
2%	松江北高校 (普通科)

## (2) スポーツ推進指定校推薦入学者選抜 (スポーツ特別選抜)

スポーツ推進指定校推薦入学者選抜 (以下「スポーツ特別選抜」という。) は、体育系の部活動の活性化を図るとともに、優秀な選手を育成し競技力を向上させ、また県内におけるスポーツ活動を活性化して生涯スポーツの発展を図るため平成14年度から実施しているものである。令和3年度選抜より重点校の見直しに伴い、スポーツ特別選抜実施校及び実施競技も見直しがなされた。表2の指定競技・実施校において募集したところ、42人 (昨年度37人) が出願し、41人 (昨年度37人) が合格した。

表2 スポーツ特別選抜実施校及び指定競技

実施校	指定競技	
	男子	女子
安来高等学校	バレーボール フェンシング	バレーボール フェンシング
松江東高等学校	バスケットボール	ボート
松江工業高等学校	ソフトテニス	
松江商業高等学校		バスケットボール サッカー
横田高等学校	ホッケー	ホッケー
三刀屋高等学校	ソフトボール	
出雲高等学校	弓道	弓道
出雲農林高等学校	ウェイトリフティング カヌー	ウェイトリフティング カヌー
大社高等学校	陸上競技 剣道	陸上競技 剣道
島根中央高等学校	カヌー	カヌー
江津高等学校	水球	
江津工業高等学校	ボート	
隠岐島前高等学校	レスリング	レスリング

(3) 中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（特別選抜）

中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（以下「特別選抜」という。）は、平成13年度に中高一貫教育を導入した飯南高校と吉賀高校で平成14年度入学者選抜から実施された。

飯南高校は頓原中学校又は赤来中学校，吉賀高校は柿木中学校，吉賀中学校又は六日市中学校に在籍する生徒を対象として，学力検査を用いない入学者選抜を実施し，飯南高校に36人（昨年度18人），吉賀高校に17人（昨年度20人）の出願があり，飯南高校36人（昨年度18人），吉賀高校17人（昨年度20人）が合格した。

### 3 一般選抜

(1) 出願状況

入学願書の受付は，令和4年1月27日（木）から令和4年2月1日（火）12時までの間に行われた。

入学定員から推薦選抜等の合格内定者数を除いた一般選抜募集定員4,606人（全日制4,246人，定時制360人）に対して，3,982人（全日制3,843人，定時制139人）が出願した。

志願変更の受付は，令和4年2月8日（火）から令和4年2月15日（火）17時までの間に行われた。他の学校に志願変更した者は53人（昨年度52人），同一学校の他の学科に志願変更した者は22人（昨年度18人）であった。この結果，志願変更後の第1志望学科への出願状況は表3のとおりであった。

表3 出願者の状況（志願変更後）

（ ）内は令和3年度選抜の数字

種別 課程	入学定員	推薦選抜等 合格内定者 (注1)	一般選抜 募集定員 (注2)	志願変更後		志願変更前
				一般選抜 出願者数	対募集定員 競争率(注3)	一般選抜 出願者数
全日制	5,140	894	4,246	3,842	0.90	3,843
	(4,976)	(836)	(4,140)	(3,755)	(0.91)	(3,756)
定時制	360	—	360	140	0.39	139
	(360)	(—)	(360)	(108)	(0.30)	(107)
計	5,500	894	4,606	3,982	0.86	3,982
	(5,336)	(836)	(4,500)	(3,863)	(0.86)	(3,863)

注1 推薦選抜，中高一貫教育校に係る特別選抜，スポーツ特別選抜の合格内定者の合計

注2 入学定員から推薦選抜等合格内定者数を除いたもの

注3 一般選抜出願者数を募集定員で割ったもの

## (2) 受検状況

令和4年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査は，令和4年3月3日（木）県内37会場において，国語，数学，社会，英語，理科の順に各教科50分，1教科50点満点，合計250点で行った。

今年度の一般選抜の受検者数は3,769人，欠席者数は出願者の5.3%に当たる213人であった。欠席の理由は表4に示したとおりであるが，本年度も高専合格や私立高校合格のため受検を辞退した者が大半を占めている。なお，欠席者のうち病気等による追検査の対象者に対しては，令和4年3月8日（火）に追検査を実施した。

表4 欠席者数と欠席理由

（ ）内は令和3年度選抜の数字

種別 課程	欠席者数	欠 席 理 由					
		病 気	松 江 高 専 合 格 者	県 内 私 立 者 合 格 者	県 外 高 校 等 合 格 者	就 職	そ の 他
全日制	199	13	120	44	18	0	4
	(197)	(3)	(110)	(61)	(22)	(0)	(1)
定時制	14	1	0	8	0	0	5
	(18)	(3)	(0)	(8)	(1)	(0)	(6)
計	213	14	120	52	18	0	9
	(215)	(6)	(110)	(69)	(23)	(0)	(7)

## (3) 選抜方法

「高等学校長は，入学志願者については，出身中学校等の校長から提出された個人調査報告書，学力検査成績，自己申告書等に基づいて，各高等学校，学科等の特色に配慮しつつ，その教育を受けるに足る能力・適性等を判定して選抜する」（入学者選抜実施要綱より）という入学者選抜の基本方針に基づいて選抜を行った。

個人調査報告書と学力検査の比率については，80:20，70:30，60:40，50:50及び40:60の中から各高校が学科ごとに選択決定することとしている。今年度は39校（分校及び併設定時制を含む）のうち，70:30が1校（昨年度1校），60:40が16校（昨年度16校），50:50が15校（昨年度15校），40:60が8校（昨年度8校）であった（学科により比率が異なる学校あり）。

この比率に基づいて総点を算出するが、60:40の場合、個人調査報告書の「学習の記録」を51点、「特別活動の記録」を9点の計60点に、さらに学力検査（1教科50点満点、合計250点）の成績を40点に換算し、合計100点満点となるよう点数化する。

平成15年度から、学力検査後に面接及び実技検査を実施する場合には、各学校が10点を限度として総点に加え選抜の資料にすることができることとした。

#### （４） 傾斜配点

「学校・学科の特色に応じた学力をみるために、学力検査の特定の教科の得点を重くみる傾斜配点」（入学者選抜実施要綱より）は昭和62年度から導入しているが、今年度実施した学校はなかった。

#### （５） 合格状況及び第２次募集

合格発表は令和４年３月11日（金）各校のホームページ上で行われ（西部・隠岐 10時、東部 10時30分）、推薦選抜等の合格内定者を含め、4,522人（全日制4,406人、定時制116人）が合格した。

令和４年３月11日（金）の合格発表の時点で、入学定員に欠員がある全日制課程及び定時制課程の各学校・学科では第２次募集を実施した。令和４年３月18日（金）に、個人調査報告書、一般選抜学力検査の結果、作文、面接結果等の資料を基にして総合的に選抜を行い、28人（昨年度32人）が受検し22人（昨年度25人）が合格した。なお、第２次募集までの合格者を含めると、最終的な合格者数は、表５に示すとおり4,546人（全日制4,423人、定時制123人）であった。

表５ 合格者の状況

（ ）内は令和3年度選抜の数字

種別 課程	合格者数			合格者			合格者のうち
	推薦選抜等	一般選抜	第2次募集	総数	県内	県外 海外	地域外 対象人数
全日制	894	3,514	15	4,423	4,240	183	55
	(836)	(3,432)	(19)	(4,287)	(4,064)	(223)	(58)
定時制	—	116	7	123	123	0	—
	—	(84)	(6)	(90)	(89)	(1)	—
計	894	3,630	22	4,546	4,363	183	55
	(836)	(3,516)	(25)	(4,377)	(4,153)	(224)	(58)

※ 一般選抜の検査及び追検査の受検が困難であった受検生に対しては、別途個別に学力検査を実施した。この合格者については、一般選抜の合格者数に含んでいる。



## 4 学 力 検 査

### (1) 出題方針

学力検査問題の作成にあたっては、中学校学習指導要領に示されている各教科の目標に沿って、平素の学習で積み上げられた受検者の学力が十分に判定できるように、問題内容を精選して出題した。出題形式は、単なる知識の検査にならないように、思考力、判断力、表現力等をみるために記述式、論述式の問題を出題した。また、身近なものを題材とした問題作成に努めた。放送による聞き取りの問題については、英語において実施した。

県内中学校等・高校の各教科を担当する教員を対象とした学力検査に対する意識調査（学力検査の難易度及び分量について）の結果は表6のとおりであった。

### (2) 得点状況

学力検査の得点状況は、表7、表8に示すとおりであった。5教科総合の平均点は133.2点で昨年度より10.3点低かった。教科別の平均点は、国語が29.0点（昨年度より－6.5点）、社会が30.5点（昨年度より＋1.3点）、数学が24.7点（昨年度より－0.2点）、理科が26.9点（昨年度より－2.2点）、英語が22.2点（昨年度より－2.6点）であった。表9は得点の分布状況をグラフに示したものである。

10ページ以降では、各高校で全受検者の約1割を抽出して行った調査に基づき、教科別に分析結果を示す。

表6 各教科を担当する教員の学力検査に対する意識調査結果

(中学校等 99校 高校 39校)

(単位：%)

教科	校 種	内容の程度			問題の分量		
		もっと 下げる	ほぼ適当	もっと 上げる	多 い	ほぼ適当	少 ない
国 語	中学校	0.0	96.0	4.0	0.0	99.0	1.0
	高 校	2.6	97.4	0.0	17.9	82.1	0.0
社 会	中学校	1.0	89.9	9.1	2.0	98.0	0.0
	高 校	2.6	84.6	12.8	5.1	94.9	0.0
数 学	中学校	4.0	92.0	4.0	16.2	83.8	0.0
	高 校	2.6	94.8	2.6	7.7	92.3	0.0
理 科	中学校	0.0	86.9	13.1	2.0	97.0	1.0
	高 校	2.6	97.4	0.0	0.0	97.4	2.6
英 語	中学校	16.2	83.8	0.0	27.3	72.7	0.0
	高 校	25.6	74.4	0.0	17.9	82.1	0.0

表7 平均点・標準偏差・最高点・最低点

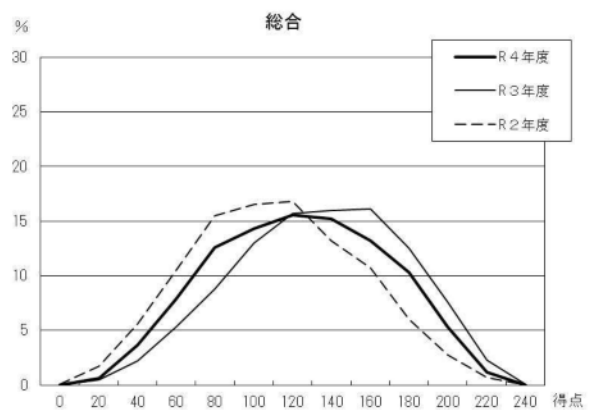
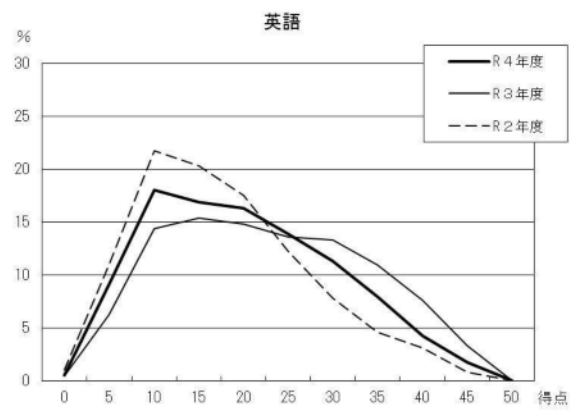
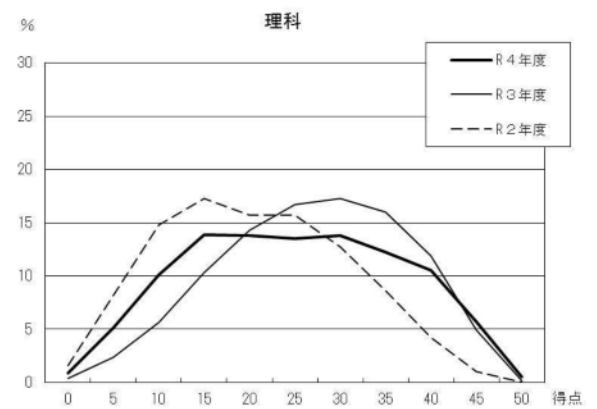
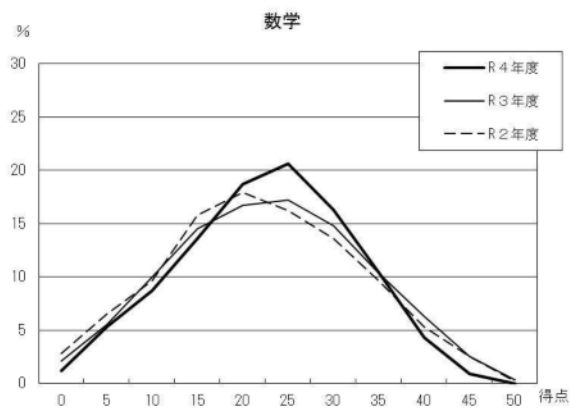
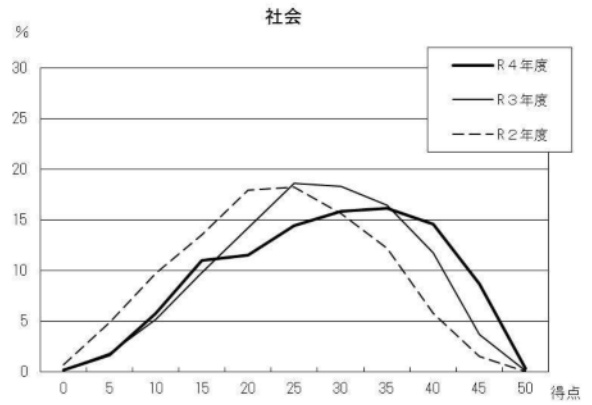
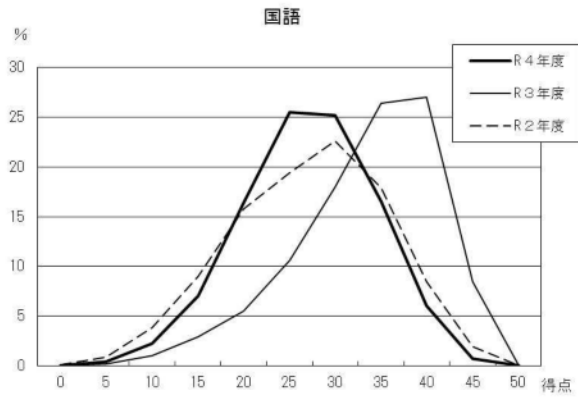
項目	平均点	標準	最高点	最低点
教科	令和4年度	偏差		
国語	29.0	7.1	49	4
社会	30.5	10.4	50	2
数学	24.7	9.3	49	0
理科	26.9	11.4	50	0
英語	22.2	10.1	50	0
総得点	133.2	43.8	241	22

項目	平均点	標準	最高点	最低点
教科	令和3年度	偏差		
国語	35.5	7.6	50	4
社会	29.2	9.4	50	0
数学	24.9	10.4	50	0
理科	29.1	10.1	50	0
英語	24.8	10.9	50	0
総得点	143.5	42.8	242	22

表8 総得点分布

得点	令和4年度	令和3年度
220点以上	46	85
200～219	199	279
180～199	387	455
160～179	496	586
140～159	574	583
120～139	589	571
100～119	540	473
80～99	475	320
60～79	299	195
60点未満	164	101
計	3,769	3,648

表9 得点の相対度数分布



## 国語科

### 語彙力を土台とした読む力や書く力、根拠を挙げて自分の考えを表現する力の育成を

#### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「国語」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「国語」に示されている、〔知識及び技能〕(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項、(2) 情報の扱い方に関する事項、(3) 我が国の言語文化に関する事項、〔思考力、判断力、表現力〕A 話すこと・聞くこと、B 書くこと、C 読むことに沿って、国語を正確に理解し、適切に表現するための基礎的・基本的な力と、それを活用する力をみることをねらいとした。

##### 【第一問題】

漢字の読み・書きの問題、文法に関する問題、書写に関する問題のそれぞれについて、基礎的な力をみる。

##### 【第二問題】

説明的な文章を素材とする問題である。抽象的な概念を表す語句や、具体例が論の展開の中で果たしている役割を理解し、筆者の主張を的確にとらえ、適切に表現する力をみる。また、文章に表れているものの見方や考え方を、別の例に応用することによって、より深く理解する力をみる。

##### 【第三問題】

文学的な文章を素材とする問題である。登場人物の描写に注意して読み、描写の効果を理解し、登場人物の言動の意味や心情を的確にとらえ、適切に表現する力をみる。また、登場人物の心情を考察して、文章に表れているものの見方をとらえる力をみる。

##### 【第四問題】

古典（古文）を素材とする問題である。基礎的な文語のきまりを理解して、現代語訳や設問中の会話文を手がかりに、古典の内容を的確にとらえる力をみる。また、登場人物の思いを想像して、古典に表れたものの見方や考え方をとらえる力をみる。

##### 【第五問題】

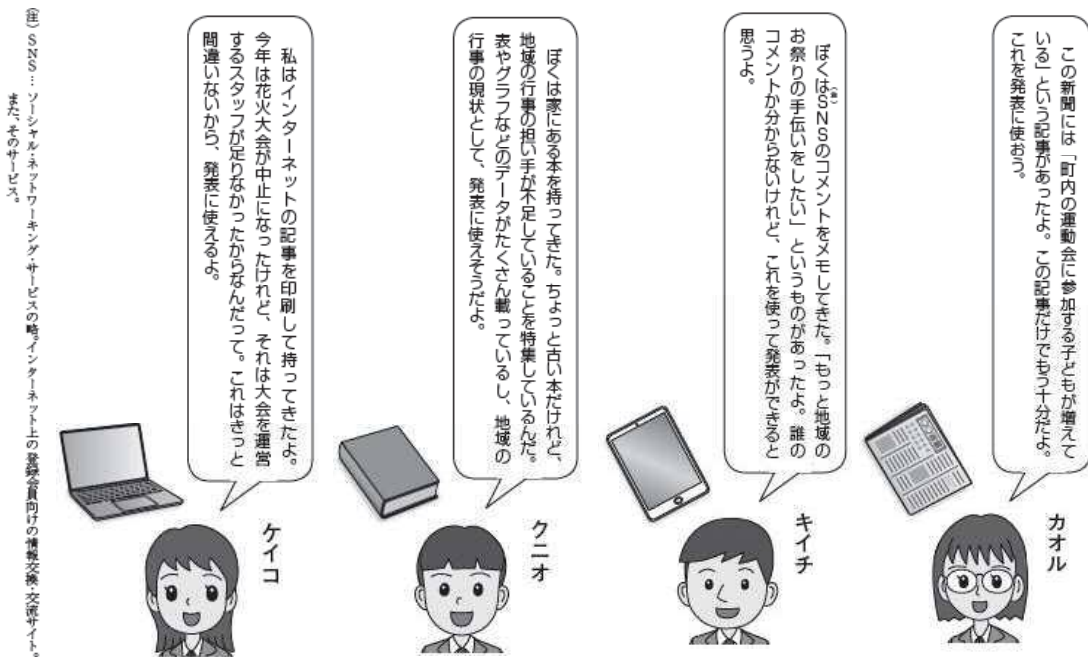
生徒たちが情報を持ち寄って意見を出し合う場面を想定した問題である。相手や場に応じた敬語を適切に用いる力や、効果的な発表をするために必要な力をみる。また、情報の扱い方についての基礎的な知識をもとに、自分の考えを経験や知識を根拠にして具体的に記述し、説得力のある文章を書く力をみる。

#### 2 総括

平均点は29.0点で、内容の程度については、中学校で96.0%、高校で97.4%が「ほぼ適当」という回答だった。問題の分量については、中学校で99.0%、高校で82.1%が「ほぼ適当」という回答だった。大問題の構成は昨年度と同様とした。漢字の読みや書写、古典の知識、効果的な発表をするための知識など、基礎的・基本的な事項はよく身に付いていた。文章読解では、基礎的な力をみる選択式の正答率は高かったが、読み取ったことを別の例に応用する問題や、記述式の正答率は低かった。作文では無答率が低く、書こうとする意欲はうかがえたが、根拠の説明不足や不整表現で減点となった解答が多かった。文章の内容を的確に読み取る力、読み取ったことを適切な言葉や表現で説明する力、根拠を挙げて自分の考えを適切に説明する力に課題がある。語彙力を土台として、読む力や書く力の育成が望まれる。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第五問題】問三



正解答（例）  
 カオルの発言の「この記事だけでも十分」という点が問題だ。一つの新聞記事だけでは、発表のための情報として不十分だからだ。授業で、同じ事柄について書かれた二つの新聞記事を比較した時、同じ事柄でも記事によって内容や伝え方が違うということを学んだ。だから、私なら、町内の運動会についての新聞記事を複数探して読み比べ、様々な情報を得てから発表に使う。

- 問三  
 上の四人の生徒たちの発言には、情報の扱い方においてそれぞれ問題点があります。その問題点について、あなたはどのように考えますか。次の①～④の条件に従って作文しなさい。
- ① 四人の生徒の中から一人の発言を選び、その問題点を指摘しなさい。指摘する際に誰の発言かを示すこと。
  - ② ①のように指摘する理由を述べること。
  - ③ ①、②を述べた後で、あなたならどうするかを、あなたの経験や知識を根拠にして、具体的に述べること。
  - ④ 百五十文字以上、百八十文字以内でまとめること。句読点や記号も一字として数える。ただし、一マス目から書き始め、段落は設けない。
- ※読み返して文章の一部を直したときは、二本線で消したり、余白に書き加えたりしてもよい。

第五問題の問三は、自分の考えを経験や知識を根拠にして具体的に記述し、説得力のある文章を書く力をみるとともに、情報の扱い方に関する知識をもとに考えを構築して文章を書くことで、生きて働く知識が身に付いているかをみる問題とした。

生徒たちが情報を持ち寄って意見を出し合う授業の場面を設定した。受検生が、情報の扱い方に関する知識をもとに考えを構築できるように、最初に情報の扱い方における問題点を指摘し、次にその理由を書き、その後自分の考えを書くという条件を提示した。

無答率は2.9%と低く、書こうとする意欲はみられたが正答率は6.9%であり、部分得点率は75.1%であった。問題点の指摘が不十分で減点となった解答もあったが、自分の考えの根拠として経験や知識を書くことができていない解答が多かった。また、誤字、脱字、不整表現が多く見られ、基礎的な漢字のひらがな表記も目立った。経験や知識を根拠とした説得力のある文章を書く力と、その土台としての語彙力に課題があることがうかがえた。知識や経験を生かして思考し、思考したことを適切な言葉や表現で説明する力、根拠を挙げて自分の考えを説明する力の育成が期待される。

## 社会科

### 基礎的・基本的知識の確実な定着と思考力・判断力・表現力等の一層の育成を

#### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「社会」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「社会」に示されている、社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察して思考・判断し、適切に表現する力が身に付いているかをみることをねらいとした。また、島根県で実施している「ふるさと教育」を踏まえ、島根県に関する事項についても出題した。

##### 【第1問題】

地理的分野における基礎的・基本的な知識及び技能の定着をみる。また、我が国の国土及び世界の諸地域について、地図や各種統計資料から読み取った情報をもとに地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、思考・判断したことを適切に表現する力をみる。

##### 【第2問題】

歴史的分野における基礎的・基本的な知識及び技能の定着をみる。また、我が国の歴史の大きな流れや各時代の特色、世界とのつながりについて、諸資料から読み取った情報をもとに歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、思考・判断したことを適切に表現する力をみる。

##### 【第3問題】

公民的分野における基礎的・基本的な知識及び技能の定着をみる。また、民主主義や現代の社会生活、国際関係などについて、諸資料から読み取った情報をもとに現代社会の見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察し、思考・判断したことを適切に表現する力をみる。

##### 【第4問題】

地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野における基礎的・基本的事項の定着をみる。また、持続可能な社会の形成に向かうために解決すべき課題について、三分野で学習した内容を関連付けながら思考・判断し、適切に表現する力をみる。

#### 2 総括

昨年度までと同様に、地理的分野、歴史的分野、公民的分野の学習内容を関連付けて思考力・判断力・表現力等を問う問題や、複数の資料を読み取って記号で答えたり、指定された字数内で表現したりする問題を多く出題した。平均点は30.5点で、問題の程度については、「ほぼ適当」という意見が中学校で89.9%、高校で84.6%であった。また、問題の分量については、「ほぼ適当」という意見が中学校で98.0%、高校で94.9%であった。

基礎的・基本的な事項を問う問題については正答率が高いことから、基本的な知識や技能は概ね身に付いていると考えられる。一方、複数の資料を読み取り関連付けて考える問題や、思考・判断したことを指定された字数内で表現する力をみる問題については正答率が低かった。それぞれの資料から読み取れることを関連付けて社会的事象をとらえる力や、何が問われているのかを正しく理解したうえで自分の考えを整理して適切に表現する力の育成が望まれる。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第2問題】問2の4

問2 近現代のおもなできごとを示した年表①を見て、下の1～5に答えなさい。

年表①

年	おもなできごと	
1868	戊辰戦争が始まる	}
1889	大日本帝国憲法が公布される	
1894	日清戦争が始まる	}
1905	ポーツマス条約が結ばれる	
1914	第一次世界大戦が始まる	}
1920	国際連盟が設立される	
1925	ラジオ放送が始まる	}
1933	ニューディール政策が始まる	
1946	日本国憲法が公布される	}
1955	アジア・アフリカ会議が開かれる	

- 4 年表①中のdの期間に資料①のような状況となった要因の一つを、dの期間の世界経済の状況にふれながら、30字以内で答えなさい。ただし、資料①、グラフ①、写真④の **D** にあてはまる語を含めて答えること。なお、**D** にはすべて同じ語が入る。

資料①

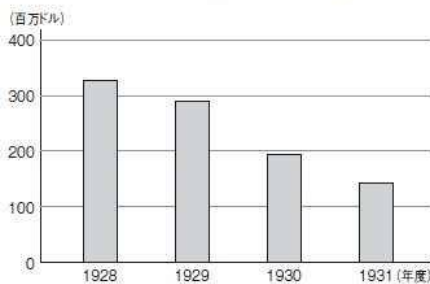
今年の「まゆ」の価格はどのくらいだろう。昨年までの価格の4割、3割、2割になってしまい価格の底値がとまらず暴落している。この打撃の痛手は「まゆ」をつくる農家だけでなく、**D** を生産する島根県内の製糸会社から富岡製糸場などを経営する全国規模の製糸会社におよんでいる。

「まゆ」



(島根県農会報(1930年8月号)などより作成)

グラフ① アメリカ向け **D** の輸出額



(「日本経済統計集」などより作成)

写真④ **D** をつくっているようす

(工場で働く人の写真を掲載)

正解答(例) 世界恐慌の影響で、アメリカ向けの生糸の輸出が減少したから。

年表・資料・グラフ・写真の多様な資料から、世界恐慌の影響でアメリカ向けの生糸の輸出が減少したことを読み取り、指定された字数の範囲内で自分の考えをまとめて表現する力を問う意図で出題した。正答率は24.1%、部分得点率は29.8%であり、「世界恐慌」や「生糸」というキーワードが記述されていない解答や、問われていることに適合しないわかりにくい表現の解答が多くみられた。このことから、それぞれの資料から読み取れることを関連付けて社会的事象をとらえる力や、何が問われているのかを正しく理解したうえで自分の考えを整理して適切に表現する力が十分に身に付いていないととらえることができる。

## 知識の概念的な理解と、数学を活用して論理的に考察する力の育成を

### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「数学」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「数学」に示されている、数と式、図形、関数、データの活用に関する基礎的・基本的な事項についての知識・技能の定着をみることをねらいとした。また、目的に応じて課題を解決することを通して、論理的、統一的・発展的に考察する力をみることをねらいとした。

#### 【第1問題】

数と式、図形、関数、データの活用の各領域における様々な内容についての基礎的な知識の理解や技能の定着をみる。

#### 【第2問題】

データの活用について、最頻値など基本的な事項の定着をみる。また、箱ひげ図から四分位数などに着目し、データの分布の様子を読み取る力をみる。さらに、身近な事柄を題材にして、情報を正確にとらえ、直線の式などを求める技能の定着と、一次関数のグラフを利用して課題を解決する力をみる。

#### 【第3問題】

身近な事柄を題材にして、数学を活用していく力をみる。規則的に並ぶ整数の特徴を正確にとらえ、成り立つ性質を文字を用いて一般化し、論理的に表現する力と、その性質を利用して課題を解決する力をみる。

#### 【第4問題】

関数  $y=ax^2$  のグラフから変化の割合や座標を求めることなど基本的な知識や技能の定着をみる。また、平行線と三角形の面積の関係など平面図形の性質を用いながら、様々な見方・考え方を働かせて図形を考察する力をみる。

#### 【第5問題】

平面図形の性質について、円の接線、作図など基本的な事項についての知識や技能の定着をみる。また、合同の証明や相似、円周角の定理などの活用を通して、様々な図形の見方・考え方を働かせて論理的に考察する力をみる。

### 2 総括

平均点は 24.7 点となり、昨年度とほぼ同じであった。得点分布については、昨年度と比較して 0 点～15 点、35 点～50 点の層が微減、20 点～30 点の層が増加し、標準偏差が小さくなった。内容の程度については「ほぼ適当」と回答した中学校が 92.0 % (昨年度 76.8 %)、高校が 94.8 % (昨年度 92.3 %) と昨年度を上回ったが、問題の分量については「ほぼ適当」と回答した中学校が 83.8 % (昨年度 91.9 %)、高校 92.3 % (昨年度 100.0 %) となり昨年度を下回った。

基本的な知識を問う問題や計算技能をみる問題については正答率が高く、基礎的・基本的な事項の定着がうかがえる。一方、用語の理解が不十分な解答、意味理解がともなわず形式的な計算に留まっている解答も多く見受けられる。条件を正しく読み取り、数学的に表現をしていくことや、式やグラフの表す意味を理解して活用していくことに課題がある。数学的に処理することだけでなく、過程を振り返るなどして、数学を活用して論理的に考察する力の育成が望まれる。



### 3 特徴的な問題の結果分析

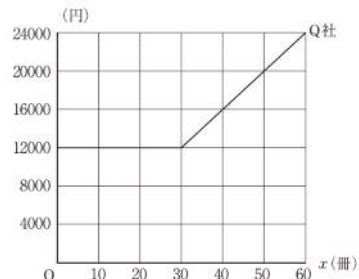
#### 【第2問題】問2の4

【第2問題】 次の問1、問2に答えなさい。

問2 A中学校の陸上部では、大会参加の記念に記録集をつくることになった。P社かQ社に印刷を依頼することになり、両社の印刷料金を表2にまとめた。料金を比較するために、印刷する冊数を $x$ 冊、印刷料金を $y$ 円とし、 $y$ を $x$ の関数とみなして、その関係をグラフに表すことにした。図2はQ社の $x$ と $y$ の関係をグラフに表したものである。下の1～4に答えなさい。

表2

印刷料金について	
P社	基本料金は8000円で、1冊あたりの追加料金は200円 印刷料金の計算式は(基本料金)+(印刷する冊数) $\times$ 200
Q社	30冊までは何冊印刷しても印刷料金は12000円
	31冊からは1冊あたりの料金は400円 印刷料金の計算式は(印刷する冊数) $\times$ 400



4 P社に依頼するとき、1冊あたりの料金を400円以下にするためには、印刷する冊数を何冊以上にすればよいかを求めなさい。

正解答 40冊以上

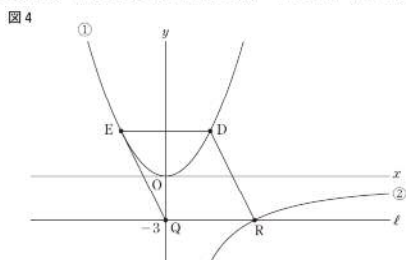
この問題は、日常生活の場面において、一次関数の式やグラフを利用して課題を解決する力を問う意図で出題した。方程式などを利用して解くこともできるが、グラフの関係を読み取って判断することもできる。Q社は30冊を超えると1冊400円(一定)になる。P社とQ社のグラフを比較することで、40冊のとき印刷料金が等しくなり、それを超えるとP社が常に安くなることが分かる。1冊あたりの料金を、グラフからどのように読み取ることができるかを考えるなど、問題の解決に向けて数学的に考察する力が必要となる。正答率は38.1%、無答率は24.6%であった。

#### 【第4問題】問3の2(2)

【第4問題】 図1のように、関数 $y = \frac{1}{4}x^2 \dots \textcircled{1}$ のグラフ上に2点A、Bがあり、直線ABは $x$ 軸に平行で、点Aの $x$ 座標は6である。下の問1～問3に答えなさい。

問3 図3のように、関数 $\textcircled{1}$ と反比例 $y = -\frac{12}{x} (x > 0) \dots \textcircled{2}$ のグラフがある。さらに、 $x$ 軸に平行な直線 $\ell$ を関数 $\textcircled{2}$ と交わるようにひく。このとき、直線 $\ell$ と $y$ 軸との交点をQ、直線 $\ell$ と関数 $\textcircled{2}$ との交点をRとする。点Qの $y$ 座標が-3のとき、下の1、2に答えなさい。

2 図4のように、関数 $\textcircled{1}$ のグラフ上に2点D、Eをとる。点D、Eの $x$ 座標は、それぞれ正、負とし、四角形DEQRが平行四辺形になるとき、下の(1)、(2)に答えなさい。



(2) 点Rを通る直線で平行四辺形DEQRを2つに分け、大きいほうと小さいほうの面積比を3:1にするには、どのような直線をひけばよいか。そのうちの1本について、「点Rと[ ]を通る直線」という形で答えなさい。ただし、[ ]には[例1]、[例2]などのように平行四辺形DEQRの周上の点を示す言葉や座標を入れること。

[例1] 辺RDを1:2に分ける点

[例2] 点(1, -3)

正解答(例) 辺DEの中点  
または 辺EQの中点

この問題は、平面における座標や関数のグラフ上の点と、図形の性質や面積を関連付けて考察する力を問う意図で出題した。条件を満たす直線から1本を選び、その直線を数学的な表現を用いて解答するものである。それまでの設問で座標が求まっていれば座標を用いて計算することができ、座標が求まっていなくても条件を満たす点の位置を正しく表現することで正解することができる。自身の考えを数学的に表現する力が必要となる。正答率は10.0%、無答率は48.5%であった。

思考力・判断力・表現力等を問う問題では、問題を解く手順だけの知識では対応できず、概念的な理解が必要となる。そして、問題から必要な情報を読み取り、問われていることに対して既習の知識・技能を活用する力が重要となってくる。計算技能を高めるだけでなく、どのように活用していくのか、その必要性や有用性について、実感をともなって理解させていくことが重要である。

## 理科

### 基礎的・基本的知識を活用させる，科学的思考力と論理的説明力の育成を

#### 1 出題のねらい

出題にあたっては，公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき，思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「理科」の出題にあたっては，中学校学習指導要領「理科」に示されている，第1分野，第2分野の基礎的・基本的な事項について，知識・技能の定着をみるとともに，自然の事物・現象について，興味・関心をもって探究し，資料や観察・実験の結果を科学的に分析し，読み取る力や思考する力，表現する力をみることをねらいとした。

##### 【第1問題】

科学的に探究するために必要な，各領域の基本的な知識・技能の定着をみる。また，自然の事物・現象に対して，各領域を横断した知識・技能の定着をみる。

##### 【第2問題】

第2分野（生物領域）における，動物のからだのつくりとはたらき，葉・茎・根のつくりとはたらきについて，実験を通して基本的な知識・技能の定着をみる。また，実験結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

##### 【第3問題】

第1分野（化学領域）における，化学変化とイオンに関する内容について，実験を通して基本的な知識・技能の定着をみる。また，実験結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

##### 【第4問題】

第1分野（物理領域）における，音の世界，物体の運動，力のはたらき方について，観察・実験を通して基本的な知識・技能の定着をみる。また，実験結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

##### 【第5問題】

第2分野（地学領域）における，大地の変化に関する内容について，基本的な知識・技能の定着をみる。また，観察結果をもとにして科学的に思考する力や表現する力をみる。

#### 2 総括

平均点は26.9点で，昨年度の29.1点からやや下降した。内容の程度について「ほぼ適当」と回答した中学校は86.9%（昨年度70.0%）に対して高校は97.4%（昨年度89.7%），「もっと上げる」と回答した中学校は13.1%（昨年度30.0%）に対して高校は0.0%（昨年度10.3%）だった。また，問題の分量について「ほぼ適当」と回答した中学校は97.0%（昨年度97.0%）に対して高校は97.4%（昨年度94.9%）だった。全般的に基礎的・基本的な知識を問う問題の正答率は高く，無答率も低かった。一方，思考力・判断力・表現力等を必要とする計算や作図に関する問題は正答率が低く，無答率も高かった。特に，複数の要素を含む観察・実験の結果を正しく読み取り，考察して解答を導く問題についてはこの傾向が顕著であった。正確な計算力に加え，科学的に考察する力を育成するために，身に付けた知識・技能を活用し実生活や身のまわりの現象について探究するなど学びを深めていくことが望まれる。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第2問題】問2の4

この問題は、実験の手順と結果を理解し、それを類似する他の問題に応用することができる力を問う意図で出題した。理解力と思考力をはかれるように、枝の数と測定時間の2つの条件を変えた。正答率は26.8%であった。枝A～Eで制御している条件やその結果から読み取った情報を整理し、1時間後の減少量を思考することで正解答を導くことが可能となる。1時間後の減少量を答えたと思われる解答が少なからずあり、日頃から問題文を正しく読み取り、自分の考えを論理的に表現していくことが大切である。

問2 シンジさんは、鳥根県の県花であるボタンを用いて、蒸散のはたらきを調べようとして、実験2を行った。これについて、下の1～4に答えなさい。

**実験2**

操作1 葉の数と大きさ、茎の長さとかさをそろえたボタンの枝A～Eを、図3のように処理をし、それぞれメスシリンダーに1本ずつさした。そこに水を加え、最後に水面に油をたらし、メスシリンダー全体の質量が100.0gになるように、それぞれ調整した。

**図3**

枝A 葉の表側にワセリンをぬる  
枝B 葉の裏側にワセリンをぬる  
枝C 葉の表側と裏側にワセリンをぬる  
枝D 葉の表側と裏側と茎にワセリンをぬる  
枝E ワセリンをぬらない

操作2 5時間後、枝A～Eをさしたメスシリンダー全体の質量をそれぞれ調べ、結果を表2にまとめた。ただし、実験に用いた油やワセリンは、水や水蒸気を通さない性質がある。

**表2**

	枝A	枝B	枝C	枝D	枝E
5時間後のメスシリンダー全体の質量 [g]	87.0	91.5	99.5	100.0	79.0

4 実験2終了後、図5のように、枝Bと枝Cをメスシリンダーと一緒にさした。そこに水を加え、最後に水面に油をたらし、メスシリンダー全体の質量が100.0gになるように調整した。1時間後、枝Bと枝Cをさしたメスシリンダー全体の質量は何gになると考えられるか、実験2の結果をもとに小数第1位まで求めなさい。ただし、蒸散する水の質量は時間に比例するものとする。

**図5**

**正解答** 98.2 g

#### 【第3問題】問1の4

この問題は、実験の手順と結果を理解し、その結果からイオンの数を推定してグラフへ作図処理できる力を問う意図で出題した。正答率は11.5%であった。水溶液の液性を表から読み取り、中和反応の量的な関係を考察することで正答を導くことが可能となる。中和反応を、イオンのモデルと関連づけて理解したうえで、グラフを用いて適切に表現する力が十分に身に付いていないととらえることができる。

既習の知識・技能や思考力・判断力・表現力等を活用し、実験結果を予想したり、得られた結果を考察したりするなどの学習活動を通して科学的に探究する力を高めることが有効である。

問1 水酸化ナトリウム水溶液に塩酸を加えていったときの変化について調べる目的で、実験1を行い、その結果を表にまとめた。これについて、下の1～4に答えなさい。

**実験1**

操作1 水酸化ナトリウム水溶液4cm<sup>3</sup>を試験管にとり、BTB溶液を数滴加えて、色の変化を観察した。

操作2 操作1の試験管に塩酸を2cm<sup>3</sup>加えて、色の変化を観察した。

操作3 操作2の試験管に、さらに同じ塩酸を2cm<sup>3</sup>ずつ加えていったときの色の変化を観察した。

**表**

	操作1	操作2	操作3			
加えた塩酸の合計量 [cm <sup>3</sup> ]	0	2	4	6	8	10
水溶液の色	青色	青色	緑色	黄色	黄色	黄色

4 3と同じように水素イオンの数を表すとどのようなグラフになるか、加えた塩酸の量が10cm<sup>3</sup>になるまで作図しなさい。ただし、縦軸の●は最初に存在するナトリウムイオンの数を表しているののでそれをふまえて作図すること。

**正解答**

## 目的や場面、状況を設定し、領域統合型の言語活動の充実を

### 1 出題のねらい

出題にあたっては、公立高等学校入学者選抜学力検査実施の基本方針に基づき、思考力・判断力・表現力等を問うことを重視した。「英語」の出題にあたっては、中学校学習指導要領「外国語」に示されている、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことなどのコミュニケーションを図るために必要な基礎的・基本的知識の理解や運用能力等をみることをねらいとした。また、複数の技能を統合させながら、習得した知識を活用して表現する力をみることをねらいとした。

#### 【第1問題】

はっきりとした口調で話される英語を聞いて、使用場面を意識しながら、具体的な内容や必要な情報を聞き取る力をみる。また、聞くことと書くことの技能を統合させながら活用する力をみる。

#### 【第2問題】

日常的な話題や社会的な話題について、イラストや図表などを参考にしながら、必要な情報を読み取る力をみる。また、読み取った複数の情報をもとに、その資料を通して伝えたいことは何であるかをとらえる力をみる。

#### 【第3問題】

会話の流れを読み取って、前後の内容から適する語句を判断したり英文の意味を推測したりする力をみる。また、英文全体を通して書き手が何を言おうとしているのかをとらえる力をみる。

#### 【第4問題】

まとまりのある英文を読んで、概要や要点を正しく読み取る力をみる。また、読むことと書くことの技能を統合させ、読んだ内容をふまえて適切に英語で表現する力をみる。

#### 【第5問題】

場面や状況に応じて、ふさわしい語句や表現を使って英文を書く力、適切な語順の英文を構成する力をみる。また、与えられたテーマに関して、他者の意見を読んで自分の考えを整理し、理由を明確にしたうえで、文と文のつながりを意識して流れが一貫した英文を書く力をみる。

### 2 総括

平均点は22.2点で、昨年度より2.6点下降し、5教科の中で最も低かった。得点分布状況を見ると、標準偏差は10.1で、平均点付近に山の無い分布となり、昨年度と比べて得点上位層の受検生が減り、平均点よりも低い層に厚みが増した。中学校段階での英語についての学力差が大きいことや、思考力・判断力・表現力等を問う問題に対応できていない状況がうかがえた。

受検生の学力を詳しくみると、解答と直結する表現を聞き取ったり情報を読み取ったりする問題では正答率が高く、英語の基礎的な知識・技能の定着は進んでいると考えられる。一方、新学習指導要領に基づき、新たに中学校で取り扱うことになった文法事項や増加した語彙に苦戦している様子もみられた。様々な場面で英語を使うことを想定した問題が多かったため、授業で行われる幅広い言語活動や多様な語彙の習得に苦手意識を持つ受検生にとっては、時間内に的確な解答を作ることが難しかったと思われる。特に「読むこと」においては、まとまりのある英文を一文一文丁寧に読んで内容を深く理解する読み方と、スピード感を持って話の概要や書き手が伝えたい要点を押さえる読み方を、うまく使い分ける力が必要である。

中学校の授業では、様々な言語活動（目的や場面、状況を設定した活動）を増やすことで、自信を持って使える表現や文法事項を定着させるとともに、複数の領域（「読むこと」と「書くこと」等）を効果的に統合させて活用する力の育成が強く求められる。

### 3 特徴的な問題の結果分析

#### 【第1問題】 問3

ヒント1と2で聞き取った英単語を書き、聞き取った先生の指示をもとにヒント3を英語で表現する問題である。綴りの誤りは一定数あったが、①②の正答率はいずれも6割台であり、基礎的な知識・技能の定着は進んでいる。一方、教室で起こりそうな場面が想定されているが、③では無答率が高く、先生の指示を理解していない解答もみられた。授業は英語で行うことが基本であることから、指示を「聞くこと」で「書くこと」を促すような、領域を統合させた言語活動の充実が求められる。

問3 英語の授業で先生がクイズを出します。その内容に合うように、次の〈メモ〉を完成させなさい。また、先生の指示を聞いて、3番目のヒント(hint)を英語で書きなさい。

ただし、①、②はそれぞれ英語1語で、③は主語と動詞を含む英語で答えなさい。放送は2回くり返します。

〈メモ〉

Hint 1 :	red, _____ ① _____, gray, black
2 :	birds and planes _____ ② _____ there
3 :	

〈3番目のヒント〉

At night, \_\_\_\_\_ ③ \_\_\_\_\_ there.

正解答 ① blue ② fly  
 正解答(例) ③ the moon can be seen

#### 【第5問題】 問4

「手書きは大切か」について生徒の意見を読み、自分の意見をまとめた英語で表現する問題である。話題が「手書き」という身近な設定であったため、無答率は19.3%に留まり、正答した受検生と部分的な誤りをした受検生の割合の合計は48.0%になった。〈条件〉を満たしていない等の理由から誤りとなった受検生の割合は32.7%であった。

今年度、どちらの立場に賛成かは、解答用紙の名前を○で囲んで表すことになり、2文目以降での英作文の語数は「15語以上」へと減った。また、昨年度までは二人の生徒がそれぞれ自分の意見を述べていたため、受検生の書きたいことが制限されていたとの意見から、ミキさんの意見は書き出しのみで、その表現を使ってもよいことになった。昨年度までとの違いに対応できた解答が多かったが、依然として、一つの理由を深めることなく単なる理由の羅列に終わる解答も多く見られた。「深い学び」の観点から、自分の考える理由を単に挙げて終わりではなく、それを補足する事柄や具体例を見つけ出す活動も有効である。普段からの言語活動がますます充実したものとなり、受検生の思考力・判断力・表現力等の更なる向上に期待したい。

問4 英語の授業で行っている話し合いの中で、ユウト(Yuto)さんとミキ(Miki)さんが自分の意見を述べています。最後の先生の質問に対して、あなた自身の意見を英語で書きなさい。ただし、次の〈条件〉①～③のすべてを満たすこと。  
 (\*印のついている語句には本文のあとに〈注〉があります。 . . . ? などの符号は語数に含めません。)

〈条件〉

- ① 1文目は解答用紙のどちらかの名前を○で囲み、どちらの立場に賛成かを明らかにすること。また、2文目以降の語数は15語以上とする。
- ② 賛成する理由を一つ挙げ、その理由を補足する事柄や具体例とともに書くこと。
- ③ 吹き出しの中の語句を使ってもかまわないが、ユウトさんに賛成の場合は、ユウトさんと同じ理由になってはならない。また、ミキさんに賛成の場合は、Typing messagesを書き出しとして省略された部分を答えてもよいし、自分で考えた理由を書いてもかまわない。

These days, we teachers usually use computers and don't have many chances to write \*by hand. But you students usually write a lot on your notebooks. Do you think \*handwriting is important?

先生

ユウトさん: Writing by hand shows who wrote the message. When we see a \*signature on a letter, we can trust that it is a real letter from the writer, not a \*fake. So handwriting is important.

ミキさん: I don't think so. \*Typing messages ... (省略) ...

先生: Thank you, Yuto and Miki. Maybe there are more good reasons to support their opinions. What do you think?

〈注〉 by hand 手で      handwriting 手書きすること・筆跡      signature サイン  
 fake にせ物      typing ~ ~をタイプすること(typeの-ing形)

正解答(例) 〈Yutoに○をした場合〉 Writing by hand is a good culture. In Japan, we learn calligraphy at school and some handwriting is very artistic.